

令和4年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時等

令和4年6月22日（水曜日）午後2時から4時10分まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター本館6階会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

令和3年12月1日から令和4年5月31日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した22事例について検討を行った。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。また、個別の事例に関して、都医師会、都薬剤師会に対して情報提供の協力の依頼を要するものはなかった。

なお、6事例（嘔気、下痢、皮膚症状、消化器症状、腹痛、食欲不振）は、摂取状況・転帰等が不明であるために因果関係が不明であること、16事例（女性化乳房、皮膚症状、膝が腫れる、血液検査値の異常、呼吸苦、消化器症状、お腹が張る、便秘、下痢、腹痛、軟便、肝機能障害）は、よく知られた非重篤な事例であり、患者の体質等製品以外の影響も考えられることから、蓄積していくという結論になった。

また、①既往症のある人、薬を飲んでいる人は、体調不良の原因が健康食品によるものか、持病や服用薬によるものか分からないため、健康食品を摂取する際は十分気を付けること、②健康食品を摂取して体調不良となった場合は、すぐに摂取を中止すること、特に、皮膚症状や消化器症状は自覚しやすいので、そういった症状が出たら中止すること、③摂取した健康食品や体調の変化について記録を付けることが大切であること、との意見があがった。

あわせて、高齢者に対する家族の関わり的重要性を示す事例及び薬剤師の関与が有効であった事例について情報提供すべきとの意見があがった。

(2) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について

（令和3年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和3年度第2回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした6事例（肝機能障害、皮膚症状、嘔気）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼したことを報告した旨、事務局から報告された。

(3) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から令和4年5月31日までに収集した事例の集計結果について、下表（抜粋）のとおり、事務局から報告された。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抜粋）

ア 情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	255	182
薬剤師会	184	172
東京都消費生活総合消費者センター*	3	3
合計	442	357

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月 17 日から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	不明・記載なし	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	19		1	1		2					2		1	4		4	3		18	55
30代	17		1		1	5					5		4	1		7			17	58
40代	13	1	3	1	1	2	2	1	1		1		6	3	1	5			17	58
50代	9	4	1			23	13		1	1	2	2	8	2	2	4			33	105
60代	8	3	1	1	3	10	19	4			1	2	15	7	1	1		2	30	108
70代	3	3	1		3	13	28	3	2	1			11	5	1			2	40	116
80代	3	3			2	10	14		3	1	1		3	2		3			22	67
90代						1	2							1					2	6
不明・記載なし	2	1				4			1						1	1			6	16
合計	76	15	8	3	11	72	78	8	8	3	12	4	48	25	6	25	3	4	187	596

- ・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給は 50 代から 80 代、腰痛・関節痛は 50 代から 80 代、健康維持・健康増進は 60 代から 70 代が多い。
- ・年齢別では、50 代から 70 代の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	263	73.7%
男性	89	24.9%
記載なし	5	1.4%

・女性 は 男性 の 約 3 倍 で あ っ た。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比
あり	242	67.8%
なし	70	19.6%
不明・記載なし	45	12.6%
合計	357	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約 3 割であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数(人)	構成比
有り	219	61.3%
無し	96	26.9%
不明・記載なし	42	11.8%
合計	357	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約 6 割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数(人)	構成比
有り	166	75.8%
無し	14	6.4%
記載なし	39	17.8%
合計	219	100.0%

(母数：基礎疾患のある 219 人)

・基礎疾患のある人の約 7 割 5 分が、治療薬と健康食品とを併用していた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	121
胃痛・胃部不快感・吐気	66
肝機能障害、肝機能検査値異常	44
血液検査異常(肝機能以外)	40
下痢・軟便	31
便秘	10
めまい・ふらつき	6
倦怠感	6
出血、出血傾向	6
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	52
合計	390

（母数：357人）

・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。

・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

令和4年6月現在

No.	氏名	所属
1	梅垣 敬三 (座長)	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科(呼吸器)教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室 室長